



真生会富山病院

地域連携だより

第4号

2013年8月発行

〒939-0243

富山県射水市下若 89-10

TEL 0766-52-2156

FAX 0766-52-2197

<http://www.shinsekai.jp/>



働く職員が安心・満足できる病院に



副院長 本多正治

当院は、安心と満足を患者に届けることを理念としています。これは患者だけのことではありません。まず、職員が安心して働き、患者と共に満足できるような職場でなければなりません。

近年、医療は高度化かつ細分化され、ともすれば、日々の業務の忙しさに忙殺され、患者との触れ合いの時間が減少しつつあることが心配されます。医師・看護師・コメディカルスタッフ・事務職員全てが、お互いに交流を深め、患者の健康を応援し、患者の病状に共に悩み、また回復を共に喜びあえる病院にしていかなければならないと思います。

職員の笑顔と爽やかな挨拶、古くから大切にされてきたことですが、この2つに勝る宝物はないと思い、私自身も実践していきたいと思っています。

真生会富山病院 理念

仏法に説かれている自利利他の精神に基づいて、安心と満足の医療をめざします。

◇基本方針

- 患者の皆様本位の医療を実践します。
- 24時間救急診療体制をとり、住民の皆様の健康と生命を尊重する病院組織を築きます。
- 在宅療養を、全科往診で支援します。
- 各科の特徴を活かした良質な医療を提供できるよう努めます。

◇職員信条

- 真生会職員は、苦しみを除き、幸せを与える抜苦与楽を目的といたします。
- 真生会職員は、正確に迅速に確認第一を心がけ日々医療サービスの向上に努力いたします。
- 真生会職員は、苦しい時こそ和顔愛語に努めます。
- 真生会職員は、和することをもって尊しとします。

クリニカルパス委員会の活動

クリニカルパス（以下パスと略します）とは患者さんにお渡しする、病気を治すうえで必要な治療・検査などの診療スケジュール表のことです。このシステムはアメリカで始まり、日本には1990年代半ばに導入され、現在では広く普及しています。

従来は同じ病院でも、担当医師の経験や判断によって異なる医療方針がとられることがありました。そこでパスを導入することにより、標準化できるようになりました。また、病気の治療内容とタイムスケジュールを明確にしたことで、患者さんは、どんな検査があり、いつ手術をして、いつ頃には退院できるかということがわかり、入院生活の不安の軽減に役立っています。医療スタッフにとっても、どのような医療行為をいつ、誰が行うのか、患者さんへの説明はどのようにするか、ということが明確になるので、医療サービスをスムーズに提供できるようになります。

当院では60種類以上のパスを作っています。今後も少しでもよりよいパスを作成できるようにチーム一丸となって頑張っていきたいと思います。



健診センターの紹介

健診課 課長 平谷和幸（内科医師）

真生会富山病院健診センターは、平成23年4月から協会けんぽの生活習慣病予防健診認定施設となりました。この施設認定により、より低価格でドックに準じた健診を受けていただくことができるようになりました。スタッフ一同、和顔愛語を心がけ親切な対応をモットーに受診者のみなさまをお迎えいたします。

人間ドックでは当日のうちに結果説明を行い、約2週間後に結果報告書を送ります。当院には体組成分析装置があり、一見、細身でありながら実は体脂肪が蓄積している隠れ肥満も見つけることができます。

ドックでのデータと診療エリアでのデータは共有されており、シームレスに健診から精密検査に移行することができます。

これからも受診者の方に安心・満足していただける健診センターを目指します。



地域医療部スタッフの紹介

○地域医療部（地域医療連携室） 布川寛子

平成24年8月より地域医療部に配属され、地域医療連携室で事務員として勤務しています。主に以下の業務を行っています。

- 1、他院からの紹介状に対する返書記載確認と記載依頼
- 2、紹介状・返書のFAX送信、原本郵送
- 3、外線電話の取り次ぎ
- 4、当院の紹介元ごとの集計
- 5、当院への診療情報提供依頼についての対応
- 6、他院へ診療情報提供依頼
- 7、他院へ診療予約対応
- 8、事務補助



当初は院外からの電話が多いことに驚きました。これまで院外の専門職の方々と話す機会がなかったため、医師や看護師、ケアマネジャー、市役所など多方面からの電話に緊張することもありました。最近では、他院へ診療情報提供依頼をすることもあり、院外の職員の方々との連携の重要性を感じています。院内の医師や関係する部署のスタッフとも業務がスムーズにいくよう努力していきたいと思います。今後ともよろしくお願い致します。

○地域医療部（医療福祉相談室）医療ソーシャルワーカー 濱名寛子

今年の3月から勤務しています。これまでは訪問入浴の介護員、病院での看護助手に加えて、デイサービスで相談員と管理者をしていました。医療ソーシャルワーカーとしての勤務は初めてで、医療費や障害年金など複雑な制度を患者さんやご家族に分かりやすく説明する難しさを日々感じています。

今までの経験を活かして、患者さんやご家族、お一人お一人に寄り添った相談対応が出来るように、自分の理解・学びを一つでも増やしていきたいです。

～先輩より一言～

新入職員が2名加わったことで、地域医療部の業務がスムーズに運ぶようになりました。今後は、より一層地域の皆様のお役に立てるように努めます。どうぞ宜しくお願い致します。

(地域医療部主任 阿部素子)



地域医療部のメンバー

地域連携交流会に寄せられたご意見より

平成 24 年 10 月 12 日に当院で地域連携交流会を開催し、射水市内のケアマネジャーの方々に大勢ご参加頂きました。寄せられたご意見への回答を一部掲載します。

(ご意見)

主治医意見書の記載が遅い。最終的に書いてもらえなかったケースもあった。

(回答)

主治医意見書の記載は、受け取ってから 2 週間以内を目標にしています。期限が迫っているのに作成されていないときは、担当者が主治医に催促しています。

最近の実績では、90% 以上は期限内に完成していますが、病状が安定していない為に期限を過ぎても作成できない場合もありました。特に入院患者の意見書は、受け取った後の流れがハッキリしていませんでしたので、今回のご意見を受けまして整備しました。最終的に書いてもらえなかったケースがあったとのことですが、おそらく他院に通院中なのに、当院で意見書記載を求められたケースではないかと思えます。そうでないのに書いてもらえなかったということがあれば、今後は地域医療連携室に言って下されば、どのような事情があったか、ご説明できると思います。主治医意見書は介護保険サービスを受ける始まりです。患者さんの在宅療養を支援する為にも、早期に記載することを心がけていきたいと思えます。

当院における紹介状の流れ

